

## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場取引所 大

上場会社名 不二ラテックス株式会社

コード番号 5199 URL <http://www.fujilatex.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤 研二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役執行役員財務部長 (氏名) 畑山 幹男

TEL 03-3293-5686

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	4,745	△5.9	273	△22.0	232	△24.0	138	4.9
24年3月期第3四半期	5,044	4.4	350	18.8	306	10.1	132	△30.2

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 140百万円 (11.2%) 24年3月期第3四半期 126百万円 (△25.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	10.91	—
24年3月期第3四半期	10.40	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	8,183	2,118	25.9
24年3月期	8,343	2,041	24.5

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,118百万円 24年3月期 2,041百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	5.00	5.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,500	△1.9	340	△14.5	290	△14.3	170	△39.5	13.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	12,861,992 株	24年3月期	12,861,992 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	141,504 株	24年3月期	138,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	12,721,199 株	24年3月期3Q	12,724,634 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信[添付資料]3ページの「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表等 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) セグメント情報等 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

## 当期の経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要を背景に緩やかな回復を続けているものの、欧州債務危機や円高の長期化そして中国をはじめ新興国経済の落ち込みなどを背景として先行き不透明な状況で推移いたしました。

経営成績については、中核事業のひとつである医療機器事業は、主力のコンドームを取巻く市場環境は依然厳しい状況が続いております。もう一つの主力分野である精密機器事業は、製造関連企業を中心に顧客ニーズに対応すべく積極的な製品開発と提案営業を推進してきました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、47億4千5百万円と前年同四半期と比べ2億9千8百万円(△5.9%)の減少となりました。

利益面につきましては、営業利益は、2億7千3百万円と前年同四半期と比べ7千7百万円(△22.0%)の減益となりました。経常利益は、2億3千2百万円と前年同四半期と比べ7千3百万円(△24.0%)の減益となりましたが、四半期純利益は、1億3千8百万円と前年同四半期と比べ6百万円(4.9%)の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。なお、セグメント損益は、営業利益又は営業損失に基づいております。

## ① 医療機器事業

主力の国内コンドームは、継続的かつ中心的な戦略として位置づけている販売チャネルとしての大型小売店・ドラッグストア・コンビニエンスストア開拓をより重点的に推進しました。常態化した価格競争に伴う価格低下圧力は依然として激しく、原材料全般の継続的な価格高止まりにより収益両面ともに引き続き厳しい展開が続きました。また、プローブカバー(感染予防製品)を中心としたメディカル製品については引き続き堅調に推移しました。

この結果、売上高は、15億4千2百万円と前年同四半期と比べ3千4百万円(△2.2%)の減少となりました。

セグメント利益は、原材料費のコストアップを生産合理化で吸収しましたが、売上減少の影響もあり4千9百万円と前年同四半期と比べ3千6百万円(△42.9%)の減益となりました。

## ② 精密機器事業

主力のショックアブソーバ及びロータリーダンパーは、国内市場において一部の市場を除き受注は堅調に推移しました。主要な市場として位置付け、開拓深耕を続けている自動車関連、家電、産業用の分野においては受注がやや低迷したものの、住宅設備関連は堅調に推移しました。海外市場では、大手取引先のある欧州の景気低迷の影響もあり受注は伸び悩みました。

この結果、売上高は、26億6千6百万円と前年同四半期と比べ2億7千6百万円(△9.4%)の減少となりました。

セグメント利益は、売上高の減少により4億9千9百万円と前年同四半期と比べ5千8百万円(△10.4%)の減益になりました。

## ③ SP事業

主力のゴム風船が主体となる販促用品市場のニーズ多様化と市場の縮小が続きました。テーマパーク等での集客回復等、プラス要因もありましたが、前期より続く広告販促活動・イベントの縮小等は本格的に改善されず依然として厳しい市場環境となりました。

この結果、売上高は、4億3千7百万円と前年同四半期と比べ1千8百万円(4.5%)の増加となりました。

セグメント損益は、2千5百万円の損失で前年同四半期と比べ2千8百万円(―%)の減益になりました。

## ④ その他

売上高は、9千9百万円と前年同四半期と比べ6百万円(△6.3%)の減少となりました。

セグメント利益は、3百万円と前年同四半期と比べ4百万円(△56.1%)の減益となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間の総資産は、81億8千3百万円となり、前連結会計年度末と比べ1億6千万円減少しました。主な要因は、現金及び預金の8千6百万円の減少と受取手形及び売掛金の6千5百万円の減少によるものであります。

負債総額は60億6千4百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億3千6百万円減少しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の2億3千8百万円の減少と未払法人税等の1億7千万円の減少や短期借入金の6億7千4百万円の増加や役員退職慰労引当金の全額取崩しによる2億8千2百万円の減少によるものであります。

純資産総額は21億1千8百万円となり、前連結会計年度末と比べ7千6百万円増加しました。主な要因は、配当金の支払いによる6千3百万円の減少はありましたが、四半期純利益の1億3千8百万円の増加によるものであります。この結果、自己資本比率は25.9%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。なお、通期の業績予想は、平成24年11月6日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益は2,479千円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,490千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,519,793	1,433,579
受取手形及び売掛金	1,812,704	1,747,186
商品及び製品	656,255	690,675
仕掛品	439,364	432,429
原材料及び貯蔵品	524,207	578,075
その他	135,615	116,505
貸倒引当金	△445	△421
流動資産合計	5,087,495	4,998,031
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	825,810	836,683
土地	1,469,852	1,469,852
その他(純額)	355,538	362,550
有形固定資産合計	2,651,200	2,669,086
無形固定資産		
投資その他の資産	44,697	50,118
その他	561,018	468,245
貸倒引当金	△3,212	△2,639
投資その他の資産合計	557,806	465,606
固定資産合計	3,253,704	3,184,811
繰延資産	2,109	383
資産合計	8,343,309	8,183,226
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,282,774	1,044,300
短期借入金	358,000	1,032,000
1年内償還予定の社債	500,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	909,754	935,274
未払法人税等	174,931	4,788
賞与引当金	106,778	37,605
その他の引当金	—	15,132
その他	333,382	282,462
流動負債合計	3,665,621	3,851,563
固定負債		
長期借入金	1,713,391	1,551,021
退職給付引当金	348,263	334,892
役員退職慰労引当金	282,831	—
その他	291,692	327,461
固定負債合計	2,636,178	2,213,374
負債合計	6,301,799	6,064,938

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	643,099	643,099
資本剰余金	248,362	248,362
利益剰余金	871,392	946,515
自己株式	△29,429	△29,804
株主資本合計	1,733,424	1,808,173
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,440	13,390
土地再評価差額金	301,221	301,221
為替換算調整勘定	△4,577	△4,498
その他の包括利益累計額合計	308,085	310,114
純資産合計	2,041,509	2,118,288
負債純資産合計	8,343,309	8,183,226

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
四半期連結損益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	5,044,037	4,745,435
売上原価	3,671,109	3,540,242
売上総利益	1,372,928	1,205,192
販売費及び一般管理費	1,022,077	931,510
営業利益	350,850	273,681
営業外収益		
受取利息	705	692
受取配当金	4,498	4,252
受取賃貸料	11,640	11,780
その他	9,209	8,390
営業外収益合計	26,053	25,114
営業外費用		
支払利息	58,177	53,435
賃貸費用	4,565	4,771
その他	7,736	7,647
営業外費用合計	70,479	65,854
経常利益	306,425	232,942
特別利益		
投資有価証券売却益	3,500	—
固定資産売却益	3,036	—
特別利益合計	6,536	—
特別損失		
投資有価証券評価損	252	—
関係会社株式評価損	43,989	—
固定資産除却損	756	816
特別損失合計	44,999	816
税金等調整前四半期純利益	267,962	232,126
法人税、住民税及び事業税	66,540	4,052
法人税等調整額	69,112	89,333
法人税等合計	135,652	93,386
少数株主損益調整前四半期純利益	132,309	138,739
四半期純利益	132,309	138,739



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	132,309	138,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,753	1,950
為替換算調整勘定	△936	78
その他の包括利益合計	△5,689	2,029
四半期包括利益	126,619	140,769
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	126,619	140,769
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	SP事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,576,305	2,942,775	419,255	4,938,336	105,701	5,044,037	—	5,044,037
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,576,305	2,942,775	419,255	4,938,336	105,701	5,044,037	—	5,044,037
セグメント利益	86,071	558,300	3,763	648,136	8,115	656,251	△305,400	350,850

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電工用手袋事業及び食容器事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△305,400千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	SP事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,542,073	2,666,373	437,925	4,646,372	99,062	4,745,435	—	4,745,435
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,542,073	2,666,373	437,925	4,646,372	99,062	4,745,435	—	4,745,435
セグメント利益 又は損失(△)	49,127	499,962	△25,113	523,976	3,559	527,535	△253,853	273,681

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電工用手袋事業及び食容器事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△253,853千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「医療機器事業」のセグメント利益が770千円増加し、「精密機器事業」のセグメント利益が1,500千円増加し、「SP事業」のセグメント利益が38千円増加し、「その他」のセグメント利益が27千円増加しております。また、「調整額」に含まれる各報告セグメントに配分していない全社費用が141千円減少しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。